

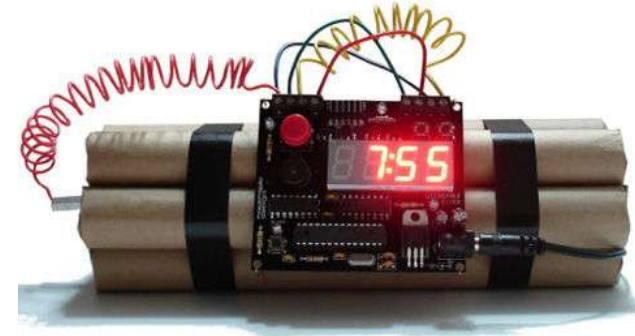
# ネットエンジニアは永遠の課題 (前任の置土産、新技術や人材育成)に どう向き合うのか

日本インターネットエクスチェンジ株式会社  
代表取締役社長 山添亮介

2016年10月28日

## 前任者が仕掛けた時限爆弾（地雷）が爆発する

- よくあること
- あることが前提で新しい職場に着任する
- 爆弾は早く見つけること、大騒ぎしない
- 周囲の社員に背景を聞く、決して興奮したり、怒ったりしない
- 「なぜ？ そうなったのか？」 表面上の理由でなく、本当の(裏の) 事情を早く理解する
- 解決策をいろいろな職位のヒトから引き出す



## 悪い例：点数稼ぎ、出世第一主義、ヒラメ社員の場合

- ・時限爆弾があることに大騒ぎ
- ・あえて強引な仕事ぶりをパフォーマンス
- ・消火活動中も消火後も偉そうに自慢する  
⇒けれど、周囲（上司も部下も同僚も）は、そのヒトを信頼しない

## 正解はひとつではない

- ・会社というもの、どんな選択肢をとっても、大きな差は出ない  
・結果が出るのに時間がかかる上、他の選択肢は結果が出てないので、今すぐ正しい比較はできない

ところで、こんな会社もありました・・・

## 出世第一主義でヒラメ社員ばかりの会社

- ・上司には、良い報告しかしない。
  - ⇒自分起因の悪い報告は隠そうとするので、問題が解決しない
- ・他部署や他人の足を引っ張りまくる
  - ⇒犯人探し、責任追及が日常茶飯事
- ・部下は自分の出世の踏み台としてコキ使う
  - ⇒部下の育成など論外。 部下は奴隷のように使い倒す
- ・お客様を踏み台にして、販売業績を良く見せるケースもある
  - ⇒利益度外視の乱売。 不要なものを売りつける。

## 正解はひとつではない

- いろいろな視点で、よく考えてみると・・・
  - ⇒ 前任者が必ずしも悪い判断をしていたとは限らない
  - ⇒ 前任者は上司や外敵要因の板挟みで時限爆弾をしかけざるを得ない状況で異動していったのかもしれない
- 解決の選択肢をなるべくたくさん調べてみるべき
- 会社というものの、どんな選択肢をとっても、結局のところ、大きな差が出ないことが多い
  - ∴ 結果が出るのに時間がかかる上、他の選択肢は結果が出てないので正しい比較できない

## おすすめ：

- ・問題を解決するうえで、会社やチーム(上司、同僚、部下等)がやる気になる、納得できるやり方がベスト
  - ∴自分一人で解決するわけではなく、大勢の手を借りて仕事するのだから
  - ∴強引なやり方は社内だけでなく、すぐ社内外に悪い噂で伝わる
- ・みずから責任を取ることに躊躇しない
  - ∴腰が引けると、下からも上からも信頼を失う
  - ∴どうせ誰も手を付けられないのだから、拾ってくれば有りがたがられる
- ・早く手を付ける。 淡々と進める。 オープンにしてやり方や考え方を周囲に理解してもらおう
  - ∴周囲は自分に対して、お手並み拝見と見ているのだから

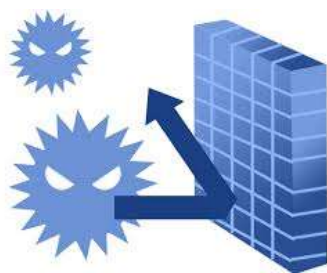


常に新しい技術は開発され、いずれ自分の問題になる

「セキュリティ対策はどうすべき？ VMって使うべき？

クラウド化ってどうする？」などなど

- ・ポリシーやらコストもからむので、自分にとっては過去の経験のほうがやりやすく、リスクのある新技術には飛びつけない。
- ・上司から命令されれば仕方ないと思うが、そうでなければできるだけ避けて通りたい。



## 「まったく、うちの若いモンは何年たっても成長しない・・・」という上司のぼやき

- ほとんどの場合、上司が教育や人材育成の方法を知らないだけ
- ただ、その上司が必ずしも悪いとは限らない。  
∵ そのヒト自身、すぐれた上司の下で人材育成や部下の教育方法を学んでこなかったのが原因
- 上司によくある「誰にも教えられずに、俺はここまでできるようになったんだから、お前らも自分で勉強してみろ！」というやらせ方では部下はいつまでたっても成長できない

